

# ひとを育てる活動

## ラムアフス校の現況

ミンダナオに着いた初日、CMIPのラムアフス小学校を訪ねました。ジェネラルサントスから日帰り圏にあるとはいえ、頂上までの道は狭く険しく、用意してくれた馬に乗ったり(左下:古川理事)、降りて歩いたり、それぞれにピラーンの学校の立地環境を汗とともに体験。目的地は4教室と狭い校庭と民家10世帯の平地です。



日本から持参した寄付物品のバツトとソフトボールに喜ぶ男子

ここでは、1-6年生80名を、マリオ先生等3名で教えています。ご飯と野菜スープの給食を一緒に食べながら、私たちの限られた支援の中でのやりくりを聞きました。住民は陸稲も作るが、自給率は15%程度で、空腹で学校に来る子どもたちに、週3回のご飯給食は欠かせないこと。また、家庭での菜園指導にも力を入れている等、教師たちの苦労が伝わってきました。

食事のあとは、寄付歯ブラシを使っでの歯磨き指導です。私たちのラムアフス校支援の歴史の中で、今も問題解決に至っていないのは「水」です。歯磨きも水がないとできません。15年ほど前に校舎建設支援をした時、雨どいを設置、雨期には雨水が利用できるようにしました。その後、支援したラムパンプ方式はうまく機能していません(関連記事P6)。ラムアフスでは、今後とも台形のとっぺんに届く水道作りが課題です。

## 学生アパートに引っ越しのカレッジ生 -その後-



前号で、全員寮を出ることになったと伝えたカレッジ生13名が、私たちと夕食を共にするため、27日夜、ノビシエートに来てくれました。「アルバイトは大変だが頑張る」という学生もいれば、「親に負担はかけられず厳しい」と涙するものもいました。CMIP内にも賛否両論があるこの措置、私たちも学生の立場に立ち、助言していけたらと思います。

## 看護師コース奨学生2名の近況一手紙の抄訳から一 ＜ジョハラ＞

入学して驚いたのは授業の進行が速いことで、ついていくのが大変でした。週末は、研修の準備、ハーブ畑の手入れなど、PIHSの手伝いをしています。前期の成績は全教科合格しましたが、ギリギリのものもあり、PIHSスタッフをがっかりさせました。後期に挽回します。難しい医学用語に苦労したり、看護実習用品の支払いなど経済面でも大変でしたが、将来みんなの役に立つように頑張ります。

## ＜モナリサ＞

私は今 HANDS 奨学生(保健ボランティアの子どもたち)の面倒を見ている。奨学生はハーブ苗木を5本ずつ、研修施設の畑に植えて管理することになっています。セミナーのテーマ決定等、各村の研修の手伝いもします。その中で、住民の組織化など学びました。入学直後は、どんな先生か、怖いのか優しいのかなど緊張しました。単位落としそうな科目もありますが、次は頑張ります。親からもらうお金は週200ペソだけで、来年どうなるか少し心配です。

奨学金は月額一人4,000ペソです。一方で、前期経費は、教材費を入れると月5,700ペソかかりました。二人の手紙も経済的試練に触れています。次年度も2名募集する予定ですが、基金残高からして、増額しても些少となります。次回理事会で増額分を決める予定です。

## HANDS と CMIP が育てた奨学生の近況

☆ 元奨学生が組織した BOSDA の森林農業事業(WE21 みどり助成)モニターのため訪ねたボルールで、思いがけずメリアン(公立小教師)と、平賀奨学金で医学部受験準備をしていたレア(看護学校講師)に会いました。BOSDA は未熟な組織ですが、同じ村出身のメリアンやレアのような先輩の助言により、環境改善と収入向上面で、確かな成果を上げることが期待しています。



BOSDA の農業指導者ボニファシオから、苗畑の説明を聞くレア(左)とメリアン(右)

☆ 先日、ナバルタビ織も担当するスヌーリアから、ボルールサロ村の簡易水道修理支援を求めるメールが届きました。10年程前、HANDS がアトモロック小のため建設した水道の支線です。この村は、スヌーリアが議員、役場の財務にジュリー、総務ジュニアワタと、元奨学生が責任ある立場にいます。4.5万ペソ(約10万円)確保のメドがつけば、次年度事業として検討したいと思います。